

つくろう！新しい選択肢

昨年末の衆議院選挙から見たもの

2014年の年末に突然行われた衆議院選挙は、マスコミに「自公の圧勝」と報じられました。

では、安倍政権が信任されたかと言えば、投票率が52%と戦後最低を更新し、比例で自民党と書いた人は全有権者の2割以下にすぎず、とても国民の意見を代表したものにはなっていません。

その理由をはっきりしています。自民党の対決軸になる政治勢力がなかったからです。

本来その役割を担うべきであった民主党は、消費税増税に賛成し、脱原発も党として明言できず、未だに再稼働を推進する電力会社から推薦をもらう議員も混在しています。集团的自衛権についても、自民党と同じ考えの議員を抱えたままです。ことほどさように自民党との政策的違いは不鮮明です。

それでも有権者の判断は、最右翼から安倍政権を支えていた次世代の党を大きく後退

させ、自民党も議席減などバランス感覚は働いています。

今、日本の政治に求められているのは、「反アベ」にとどまらず、政策的に対抗できる政治勢力の登場です。消費税増税撤回、脱原発、集团的自衛権行使はさせない、同時に具体的な対案を持った、新しい選択肢をつくることです。

4月の統一地方選挙は、新しい動きをつくる第一歩になります。私も南区の市議会選挙に向けて奮闘していきます。

問われる市議会の透明度

昨年の12月市議会に、川内原発再稼働に対し、30km圏内の全ての自治体の同意を求める意見書を国に提出するよう求める陳情が出されました。

総務常任委員会では主に自民・公明の反対によって採択にいたりませんでした。ここでおかしなことがありました。

この陳情を出す時、提出する方と市役所に行きましたが、その際、口頭陳情ができるようになった、と説明を受けました。当然、是非口頭陳情したい、と陳情者は議会局に申し入れていました。

川内原発再稼働に対する陳情は不採択に

しかし結果は口頭陳情はできず、問い合わせると、「議員から提案がないと議題にならない」というのです。議員に根回しをして提案を頼み、しかも反対者が出ない、という前提条件がクリアされている必要があったのです。

事前の説明で受けた「できる」からはほど遠く、クリアすべき条件があることを説明されなかったことに私は納得できていません。

これは故意なのか、それともこんな仕事で仕方ないのでしょうか。いずれにしろ、市議会の透明度に問題ありです。

長谷川くみ子を応援する会にご参加ください

- ◆年間1口1000円を振り込んでいただければ、「長谷川くみ子レポート」をお送りします。また「出前座談会」や「茶話会」をおこなっています。お気軽にお声かけください。

- ◆振込先 郵便振替 00210-5-67674
長谷川くみ子

長谷川くみ子は再び市政に挑戦します。

25歳で相模原市議に当選以来、市議、県議2期をつとめる。一貫して既成政党に所属せず。2011年の県議選惜敗以降、商店街で働きながら政治活動に参加。問題山積の政令市の市議選に挑戦することを決意。

